

きょうと福祉俱乐部だより

2015年 3号

わたしたちが目指す介護—Mさんから学ぶ

介護は介護を必要とする人の日常にある物です。
長くその人が暮らしてきた人生の歴史。それを中断してしまう
介護は出来る限り避ける、それが尊厳ある介護だと思います。

介護士が後見人を務める独り暮らしのMさん。
昔から、長岡京にお住まいを持ち生活し、京都にある公立病院の看護師長を勤めた方を、わたしたちはケアプランと訪問介護でお手伝いさせていただいています。

退職後ご主人を亡くされてから一人での暮らしになられました。お子様はいらっしゃいません。

Mさんの出会いは、今年の1月頃 Mさんと古くからおつきあいのある友人の方がMさんの身を案じて事務所に相談に来られたのがきっかけでした。

初めてお伺いしたとき、家の中は本や細々とした物やゴミであふれ、床も見えないほどに埋め尽くされ、足の踏み場もありませんでした。

就寝場所も「ごみ」の中…

ゴミの中から見詰める目は警戒心でひきつっていたのを覚えています。

「放っておけない！」

と遠くから訪ねてこられる妹さんも何から手を付けて良いのか分からぬ状態で、Mさんの話をしているだけで、涙を流されることもあります。

主治医の先生もこの方の病状を「家の暮らしは無理」とグレープホームを妹さんに紹介されました。
しかし、そこには生活の連続性はありません…。

わたしたちはお家で過ごせるケアプランを立てよう！
と話しあい、実現へと一歩踏み出してみました。
もちろんわたしたちだけでは支えるチークはできません。

ヘルパーも福祉俱乐部だけでは必要量を満たすことはできませんので、2つのヘルパーステーション、デイサービスセンター、訪問看護、福祉用具貸与事務所、介護保険以外のサービス、移動支援(ガイドヘルパー)利用を手配してお家の暮らしを続けられるようにしました。

はじめは警戒心のあったMさんですが、今では笑顔で毎日ヘルパーや看護師を迎え入れてくれ、お茶まで出してくれるようになり、冗談を言い、笑いあえるまでになりました。

通院のお手伝いをして頂いている妹さんの顔にも「ゆとり」があるように見て取れます。

生活の連続性、歴史を途切れさせない支援、笑顔を引き出せる支援をこれからも続けていきたいとおもいました。

書評

- 介護保険は詐欺である
- 介護保険料に怒る一揆の会 編
- 日下部雅喜 著
- 三一書房 本体 1300 円+税

筆者の日下部さんは大阪府堺市の介護保険を担当している現役公務員です。

きょうと福祉俱楽部が主催したシンポジウムでも報告者を務めてくださいました。

介護保険で事業を運営するわたしたちがその介護保険を詐欺だと断定する本を紹介するのはおかしな事です。確かにこの制度でいのちと暮らしを支えられている方々は沢山います。ですがこの制度が保険料もどんどんと増額される一方で使い勝手は年々悪くなっていることはお気づきの方も多いのでは無いでしょうか？

介護保険には構造的な欠陥があり、介護を要する高齢者が増えれば増えるほど行き詰まっています。

例えば制度が始まった2000年65歳以上の高齢者の保険料負担は0円でした。そして今では年間全国平均で60,000円にもなっているのです。

今年の改悪では保険料は上がり続けているのにサービス利用の制限が強化されました。例えば特別養護老人ホームへの入所申し込みは「要介護3」以上で無ければ特別の場合を除きできなくなりました。

事業所に支払われる報酬は減らされました。しかし皆さんの負担する金額は2割負担の導入や処遇改善加算の増額で増える。

このように支離滅裂なものとなっています。この本は詐欺とも言うことのできる介護保険の構造的な欠陥を示しながらあるべき老後保障の姿を問い合わせています。

介護保険は 詐欺である

介護保険料に怒る一揆の会編
日下部雅喜著

こんな介護保険ならいらない!
カネだけ集めて、見合うサービスを提供しない行政に、怒りの不服審査請求!
介護保険制度の欺瞞とカラクリを抉る!

三一書房

お薬
ひくいちめい

ジェネリック医薬品

ジェネリック医薬品



医療用医薬品には、新薬(先発品)とジェネリック(後発品)があります。

新薬をつくるには、開発に膨大な費用と年月を必要とします。新薬が発売され特許期間が終わるまで(20年~25年)は、他社が許可なく同一成分の薬を作ることができます。

しかし、特許が切れると他社の製造・販売が可能になり同一成分の薬をつくることができます。そのような経緯でつくられた後発品は開発費が不要なため、薬価が非情に安く、薬剤費を抑えることができます。また、後発品は異なる会社からゾロゾロ発売されるため「ゾロ品」とも言いわれます。

現在、日本の国民医療費は38.5兆円に達し、医薬品の費用が7兆円を占めています。そのため厚生労働省は現在、医薬品削減のためにも後発品の使用を推進しています。

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉俱楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイツ東台101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail kyoto-care@club.email.ne.jp